

## CBD ドリルを用いたインプラント埋入窩調整法

Legacy インプラントには、骨孔形成の最終的な調整のため、インプラントの各直径毎にCBD(コーティカル・ボーン・ドリル)ドリルが用意されています(図1)。

例えば、骨が硬固質でセルフタップでの埋入が困難なケースでは、CBD ドリルを正回転で使用し、骨孔入口付近の皮質骨をさらに拡大形成します。最も埋入トルクに影響を与える部分の拡大により、無理のないインプラント埋入を可能にします(図2)。

また、インプラントを深めに埋入するようなケースには、このCBDドリルを逆回転で使用します。

CBD ドリルの刃部根元に付与された羽根状の刃による切削で、今度は骨孔入口にカウンターシンクが形成され

ます(図3)。カウンターシンク形成により、ヒーリングカラーやトランスファー、アバットメントを確実に連結することが可能になります。

2つめの機能であるカウンターシンク形成については、羽根状の刃が逆回転でのみ骨を切削する設計となっており、必要のないケースでの誤使用を防止します。

また、カウンターシンクの保存には、付属のエクステンダーの装着が有効です。

骨が硬いケース、インプラントを深めに埋入せざるを得ないケース等との遭遇に備え、埋入インプラントの直径に合ったCBDドリルのご用意をお勧めいたします。



図1

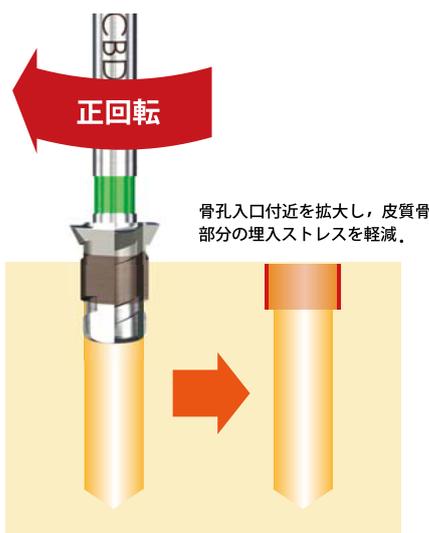


図2

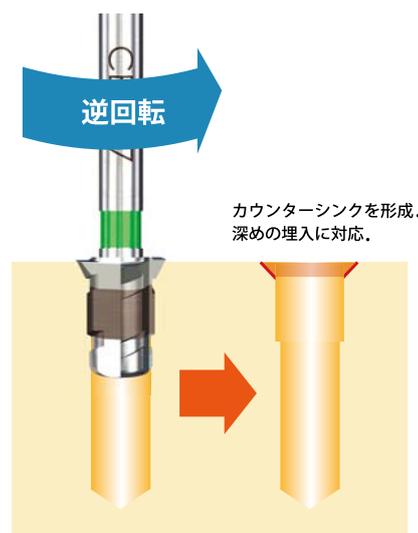


図3